

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2010.10.22

1,2年生用 秋号

厳しい就職戦線明日は我が身！



昨年以來極めて厳しい就職戦線が続いています。昨年は就職希望者の半数に当たる 30 名弱が一次試験で不合格となりました。今年もその状況は変わらず、今年はむしろ半数を超える生徒が不合格という状況です。昨年に比べて経済も幾分持ち直し、上伊那でも求人数が若干増えましたが、就職希望者が昨年より増し、本校においては大変苦戦した状況にあります。

しかも昨年は 12 月以降に景気も上向き求人数が若干増え、卒業までには何とか全員の進路が保証できましたが、今年は急激な円高によりむしろこれからの経済の落ち込みが心配であり、卒業時に全員の進路保証は難しいのではと心配です。

皆さんにとっては人ごとと思っているかもしれませんが、この先急激な日本の経済の回復の見通しは無く、むしろ先行き不安の方が多岐がします。むしろ来年の進路の方が心配です。また進学するから関係ないと思っている人もあるかもしれませんが、今大卒等の就職先が無く困っている状況の中で、進学者は心配を先送りするだけで、実は安心は出来ません。

今年の就職戦線の特徴的なことを紹介しましょう。

1 基礎学力重視

昨年から一層この傾向が強まっています。少ない求人にも多数が殺到したとき企業の選択基準は「就職試験の点数」となります。基礎学力の無い者は、他校生に負けてしまい不合格となっています。日頃からきちんと基礎学力を付ける努力をしないと泣きを見ることとなります。

2 学校推薦に値しない生徒は就職は無理

希望すればどこでも受けられると思っているかもしれませんが、就職はあくまでも学校長の推薦です。学校と企業との長年の信頼関係を裏切るような生徒の推薦は出来ません。

3 欠席日数の多いものは極めて不利

今年も受験に際して欠席日数が多すぎるという理由で不合格になった生徒がいました。3年間で 15 日以上の欠席のあるものは極めて不利です。進学者も指定校を希望する場合は同様です

4 意欲のある生徒が有利

「是非この会社に入り頑張りたい」、という強い意欲とガッツのある生徒を企業は望んでいます。成績が良くても覇気が無く意欲の感じられない生徒は不合格になる確率が高くなります。運動クラブ経験者が評価されるのはこのためです。真面目でおとなしいだけではダメです。

5 コミュニケーション能力があるもの

職場の中で人との意思の疎通がはかれ、上手く周りの人とやっていられない者では会社でも困ります。周囲と上手にコミュニケーションがとれるというのは今の世の中で極めて大切なことです。人とあまり話が出来なような生徒は今年落とされています。

皆さんは 3 年になれば簡単に進路が決められると思っているかもしれませんが、現実にはそんなに甘くありません。日頃からきちんとした生活を送ってこない、その場になり取りつくろうことは出来ません。学校としても中途半端な生徒の進路は、この厳しい今の世の中では保証できません。卒業時に就職が出来ない一人にならない為にも、普段から進路を意識した生活を心がけよう。